

SHOW HEYシネマルーム

★★★

イン・ディス・ワールド

配給/アミューズピクチャーズ

2003 (平成15) 年11月10日鑑賞

<東映試写室>

Data

監督: マイケル・ウィンターボトム

出演: ジャマール・ラディン・トラ

ビ/エナヤトウーラ・ジュマ
ディン

👁️👁️ みどころ

パキスタンの難民キャンプで生まれ育った15歳のジャマール少年のイギリスへの密入国の旅を描く、異色のドキュメントタッチの映画。第53回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞した作品であり、考えさせられるところは多い。しかしイスラム社会やアフガン問題の理解は難しい。よ〜く勉強しなければ・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<重いテーマ 密入国の旅>

この映画は、パキスタンの難民キャンプで生まれ育った孤児の少年ジャマールが、従兄弟の青年エナヤットと共にロンドンに向かう姿を描いた異色作品。もちろんパスポートを持った自由な旅ではなく、密航手配師に多額の報酬を支払うことによってチャンスを得た、死と隣り合わせの危険をもった「密入国」だ。

<深刻な難民・移民問題>

マイケル・ウィンターボトム監督がこの映画を撮ろうと考えた動機は、2000年6月18日、ベルギーからオランダ港を経てイギリスのドーバー港に到着したトラックのコンテナから、中国福建省出身の中国人58人が遺体で発見された事件だ。「蛇頭」の手引きによる密入国の例は日本でも有名だが、このような難民、移民、密入国の問題は先進国においては世界的に深刻。入国先として最も人気があるのはイギリス。その理由の1つは、無償で国民健康サービスを受けられるからだそう。

<この映画の主人公は？>

この映画の主人公を演ずるのは、素人から選ばれた映画初出演の少年で、小型のデジカメを使用したドキュメントタッチの映画となっている。そしてジャマール少年がさまざまな危険と直面しながらもこれを切り抜け、やっとロンドンにたどり着き、カフェの皿洗いとして働く場所をみつけ、神に祈りを捧げるところで終わる。また現実問題として、彼は映画の出演料で難民申請を提出したが、02年8月にそれは却下された。なお特例としてイギリスへの入国が認められたものの、18才の誕生日までに立ち去ることが条件とされているとのことだ。

<第53回ベルリン国際映画祭金熊賞等受賞>

この『イン・ディス・ワールド』は、2003年の第53回ベルリン国際映画祭で、山田洋次監督のあの傑作『たそがれ清兵衛』をおしのけて、金熊賞をはじめとしてエキュメニク賞、ピースフィルム賞の3部門を受賞した作品。それは、この映画のドキュメント性やアピール力が認められたからだろう。確かに、ジャマール少年の密入国の旅を描くこの映画のテーマは重大。しかしパンフレットにも書いてあるように、私たち日本人は一般的に難民、移民、密入国問題について、関心が低い。だが、そうだからこそ私たちは01年の9・11テロ以来大問題となったアフガン問題が大変な問題であることを理解し、9・11テロを契機としてアフガン問題、そして大きくはイスラム問題を考えなければならない。そしてまた難民キャンプ、言語、民族、宗教等の問題について関心を持ち、大いに勉強することが必要だ。この映画がそのきっかけになれば、と思うが・・・。

<「ひとりぼっち欧州に」は今日的な大問題>

2003年11月11日付朝日新聞朝刊は、「ひとりぼっち欧州に 子どもたち、入国急増」、「戦争孤児・出稼ぎ・人身売買・・・」という見出しで、「家族や保護者と別れ、ひとりぼっちで欧州にたどり着く子どもが急増している」ことを報道した。彼らは、「戦争で親を失ったり、貧困な地域から稼ぎ手と期待されて送り出されたり、人身売買ネットワークに乗せられたりした18歳未満の入国者だ」、「孤立した外国人未成年(MIE)と呼ばれる彼らの受け入れ態勢は整っていない」、「子ども」として保護や福祉を重視するか、「難民」として管理や規制の対象とするか」について、ヨーロッパの国々は、その対応を巡って揺れている。

この記事では、特にパリでのMIEに対する対応が詳細に報告されている。MIEは支援する市民団体は、「出身国の生活環境を改善するための国家レベルの援助を含め、多様な取り組みが必要だ」と話すが、自治体や治安当局は出入国管理の方を重視することになっている。欧州全体で1万6000名余に上るMIEへの対応は深刻な今日的テーマだ。

2003(平成15)年11月11日記